

交流センターだより



No.162
令和4年
9月号

題名：うちのごろう 2才

発行 大歳地域交流センター TEL 922-4035 FAX 922-4036 人口 14,015 世帯数 6,854
開館時間 8時30分～17時15分 (行政窓口 TEL 922-2461) (令和4年8月1日現在)

「交流列車おおとしまつり」中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、9月10日(土)に予定しておりました「第9回交流列車おおとしまつり」の開催を中止することといたしました。まつりの規模や参加人数、昨今の社会情勢等を考慮した苦渋の決断でしたが、何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。



【大歳まちづくり協議会】

事務局(大歳地域交流センター内)

TEL: 083-920-1700

地区バドミントン大会を開催します！

下記の日程で大歳地区バドミントン大会を開催します。奮ってご参加ください。

日時：10月2日(日) 8時30分～

場所：大歳小学校体育館

競技種目：分館対抗の部(男子・女子・混合ダブルス)のみ

問い合わせ先：大歳体育振興会

(大歳地域交流センター内)

(TEL: 922-4035)

※個人戦は実施しません。

※出場希望の方は9月1日(木)～9月22日(木)までに各分館長または体育委員まで直接お申込みください。



大歳地区の皆様へ ゴルフコンペ参加者を募集します！

大歳地区にはゴルフ仲間が集い楽しくゴルフをする緑遊会があります。年に数回コンペを開催し、コミュニケーションを図っています。次回コンペは下記のとおりですので皆様方のご参加をひろく募ります。メンバーの方にはハガキをお出しいたします。(締め切り：9月21日)

日時：令和4年9月27日(火) 9時30分集合

場所：湯田カントリークラブ

参加申込み：重政 (TEL: 090-3747-8389)



鴻南地域包括支援センターからのお知らせ ～ご存知ですか？九月は世界アルツハイマー月間です！～

世界中で認知症の啓発活動が行われ、山口市でも認知症学習会の開催や、今年も市内の図書館で啓発活動が行われます。大歳地域交流センターの図書室でも認知症関連の取り組みや図書の紹介をします。ぜひご覧下さい。

『忘れてもあなたはあなたのままでいい』
2022年度世界アルツハイマー月間標語

認知症とともに希望が持てる社会への3つのヒント

- ①からだが少しずつおとろえることに備えましょう。
- ②認知症になるかもしれないことに備えましょう。
- ③早めの相談、受診へつなげましょう。



山口市鴻南地域包括支援センターは身近な相談場所です。訪問や電話で相談に対応します。お気軽にご連絡下さい。 ☎ (083) 934-3333

みんなのひろばからのお知らせ 太陽クラブからのお知らせ

いきいきシニアライフのための健康ヨガ体験会です。健康ヨガを体験しましょう！

- 日時：9月17日（土）13時30分～15時00分
- 場所：大歳地域交流センター 和室
- 講師：岡崎千絵先生
- 参加費：100円
- 持参物：ヨガマット（またはバスタオル）
軽い運動のできる服装
飲み物
- 定員：11名
- 申込先：大窪 TEL 080-2904-8193

子育て支援サークル「太陽クラブ」は自由参加の親子サロンです。

9月の活動は、朗読劇やまぐちのみなさんをお招きして、朗読劇の上演会を行います。うさぎとかめの朗読劇や大型絵本の読み聞かせなど小さい子ども向けの楽しい内容となっています♪
ぜひご参加ください！

- 日時：9月16日（金）10時00分～
- 場所：大歳地域交流センター 講堂
- 内容：朗読劇やまぐちの朗読劇上演
- 参加費：無料
- 持参物：飲み物
- 募集人数：未就園児の親子10組程度
- 申込期間：9月2日（金）10時00分～
9月9日（金）まで
- 申込先：竹中 TEL 090-7136-8305

母推さんの子育て応援講座

いざという時のために一緒に防災について学んでみませんか。

- 日時：9月14日（水）
10時00分～11時00分
（受付 9時30分～）
- 場所：大歳地域交流センター 和室
- 講師：日赤山口県支部職員
- 対象：乳幼児をもつ保護者
- 定員：8組
- 申込み：9月1日から受付開始
- 問い合わせ先：大歳地域交流センター
（TEL：922-4035）



大歳地区ゴミ拾いプロジェクトの参加者を募集します！

親子で参加

大歳地区ゴミ拾いプロジェクト

会えたらラッキー！幸せを運ぶ地域お助け隊

～私たちの住んでいるまちをきれいにしよう～

ゴミ拾いのあとは雨量計を作るよ！

○日時：10月10日（月・祝）

9時00分～10時00分頃 ゴミ拾い

10時15分～11時30分 雨量計作り

※雨天の場合は、9時00分から雨量計作りのみ行います。

○集合場所：大歳地域交流センター 講堂

○対象：小学生の親子

○参加費：無料

○持参物：1.5ℓペットボトル（記名してきて下さい）、水筒、軍手、
運動のできる服装

○募集人数：親子30組（先着順）

○申込方法：

■大歳まちづくり協議会（TEL：083-920-1700）まで

お名前と学年、保護者の方のご連絡先を伝えて下さい。

○申込期間：9月9日（金）～9月22日（木）

（月～金曜日 9時00分～17時00分）

～地域の皆様へ～

ゴミ拾いを頑張る子ども達を見かけられましたら、安全見守りと温かいお声かけをしてくださるとありがたいと思います。（ゴミ拾いは交流センターを中心に30分程度で回れる範囲で行っています）



【大歳まちづくり協議会こども部会】
事務局（大歳地域交流センター内）
TEL：083-920-1700



【大歳地区9月の行事予定】



1日（木） 燃やせないごみの日

9日（金） ぶっくん来館日(15:20～16:00)

11日（日） おおとしクップ分館対抗交流大会

12日（月） 金属・小型家電製品ごみの日

14日（水） 母推さんの子育て応援講座(10:00～11:00)

16日（金） 子育て支援サークル 太陽クラブ(10:00～)

16日（金） パソコン相談(受付 10:00～10:30)



17日（土） みんなのひろば(13:30～15:00)

21日（水） びん・缶ごみの日

22日（木） 古紙ペットボトル分別収集(大歳①)

23日（金） ぶっくん来館日(15:20～16:00)

27日（火） ゴルフコンペ(9:30～)

29日（木） 古紙ペットボトル分別収集(大歳②)

※木曜日はプラ容器包装分別収集



富田原の日吉神社遥拝燈 その2

榎野川の流路が変わったため、富田原から日吉神社の参拝がやりにくくなったので、遥拝燈が作られたとする説を検証してみましょう。榎野川が何度も流路を変えたことは確かでしょう。しかし、問題は平井と富田原を切り離す流路の変更がいつ頃起きたかです。

平川の公民館づくりに尽力した著名な郷土史家の石川卓美氏はかつての榎野川の流路を姫山の下の出合で現在のように曲がらず、仁保川の流れのまま北上し、湯田温泉駅の近くを通過して南下し、平川に入って、小原、福良、田屋島の南を通過して、小郡に流れ込んだとされています。そのため本来地続きであった富田原と平井、小原と矢原、福良、田屋島と岩富が切り離されたと推論され、その証拠として、川を挟んで同一の村が生まれ、川向この神社の氏子であり続けるという変則的状況が生まれたとされています。

しかし、長州藩の「村」は他藩の数倍の規模で、集落である村の編成基準もしばしば変更されています。享保期の「地下上申」では朝田村であった河内・阿仙原が天保期の「風土注進案」では黒川村に編成替えされた例などをみれば、川を挟んで同一の村が存在するメリットに従った村落編成もありうるのではないのでしょうか。また享保13(1728)年作とされる「地下上申絵図」では、榎野川はすでに現在の流路となっています。さらに大内氏が山口に館を構えた後に発達したと思われる秋穂街道(上使道)で榎野川をわたる秋穂渡瀬は榎野川が現在の流路であることを前提にしていますから、室町後期以前でなければなりません。

平安後期の天慶6(943)年に日吉神社が創建されたという伝承(おそらく、もっと後と考えられるが)に従えば、この時より一定の時間を経た鎌倉・室町時代に流路変更が起きている必要があります。大歳に多い国衙領を示す「保」の成立が榎野川流域では遅く、矢原保は南北朝以降です。富田原は「どだ・どた」が訛ったもので「湿地、泥地」を示すものと考えられ、周南市の富田など、佳字である富田をあてた地名が各地に存在します。開拓が困難で、鎌倉・室町期では保名がみあたりませんから室町中期までに人家があったという保障さえありません。さらに遥拝燈が江戸時代にできたという伝承に従えば、流路の変更から数百年後につくられたこととなります。むしろ遥拝燈設置ブームに従ってつくられたのであり、流路の変更が前提になる必要性は薄いのではないのでしょうか。

第2説は明治12年に区画変更で富田原は平井村を離れて矢原村に編入されても日吉神社の氏子で有り続けるとの決意を示したものとする説で、遠くなったのは距離ではなく帰属意識であり、平井への交通が大幅に改善され、日吉神社に行きやすくなった象徴である豊年橋のたもとに建てられたことによく示されていると考えたものです。しかし、この説も遥拝燈が江戸時代につくられたという伝承との整合性を欠きます。

建立年代が不明なため、いずれとも確定できませんが、富田原が平井に属し、平井の氏神の氏子であったことを示す貴重な建造物であることは確かです。
(大歳史談会、文責：武波義明)



榎野川上流より豊年橋、日吉神社方面を望む



秋穂渡瀬橋、山口大方面から富田原を望む